

先生各位

## 親展報告書様式変更訂正のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「親展報告書新様式」でご案内しております親展報告書の新様式につきまして、報告書を圧着した際、内面に表記しております“裏面に「HIV検査のすすめ方」等の情報が記載されております” “HIV検査のすすめ方” “HIV感染の各ウイルスマーカーと検出時期”それぞれの「HIV」の文字が透けることが発覚いたしました。そのため、報告書のプレ印刷位置を下記の通り一部変更させていただき、HIVの文字が見えないように致しましたのでご案内申し上げます。

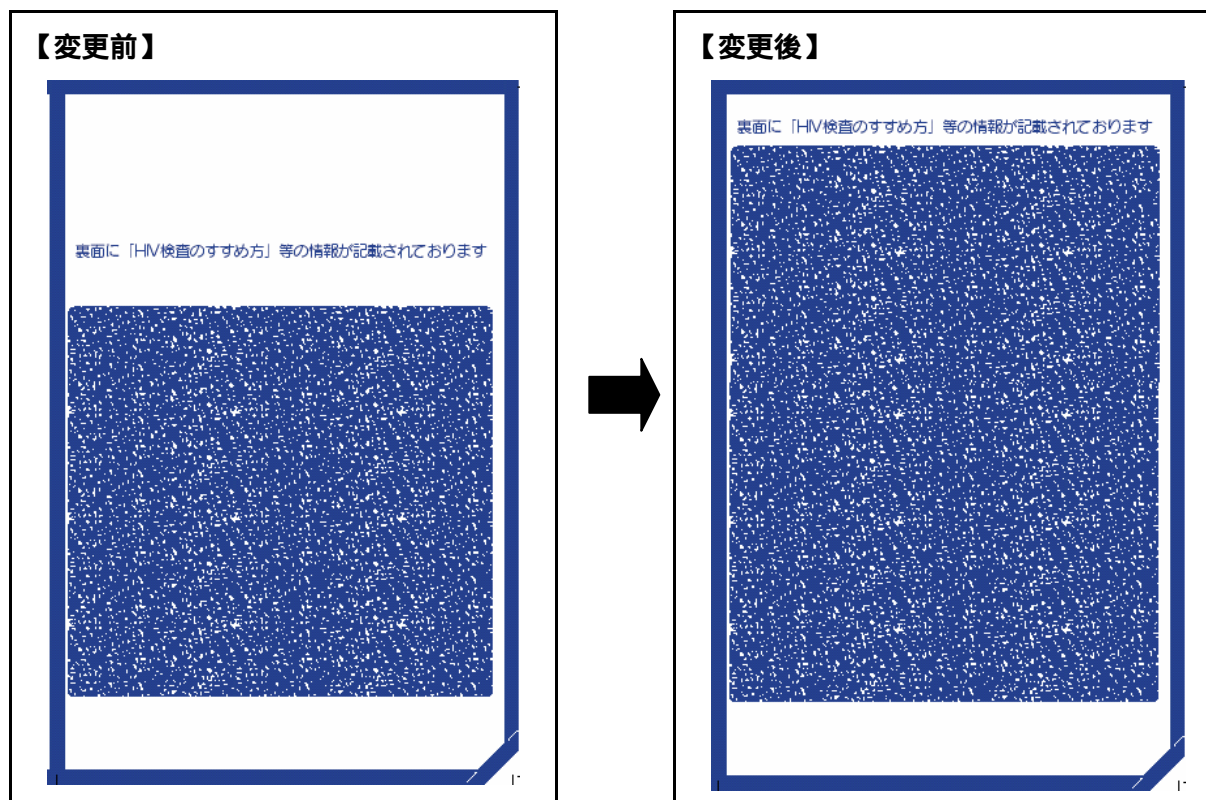
今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしく願い申し上げます。

敬白

記

### 《訂正箇所》

“裏面に「HIV検査のすすめ方」等の情報が記載されております”を上部帯部に移動し、圧着した際透けないようにする。また、同ページの検査結果目隠し部を上部まで拡大する。



“ HIV 検査のすすめ方 ” と “ HIV 感染の各ウイルスマーカーと検出時期 ” のタイトル部を上部帯部に移動し、圧着した際透けないようにする。

**【変更前】**

**HIV検査のすすめ方**

HIV抗原・抗体スクリーニング検査 (EIA法)

HIV抗原・抗体スクリーニング検査は高感度な検査法です。しかしながら、方法の如何に関わらず偽陽性率の高い検査でもあります。従いましてスクリーニング検査で陽性あるいは判定保留の場合には確認試験にて感染の有無をご確認いただくことをお勧め致します。(スクリーニング検査陽性のうち、真の感染者は10%以下といわれています)

陽性 (+)      判定保留 (±)      陰性 (-)

判定保留 (±) → 数週間後に再検査

陰性 (-) → 陰性 \*1

**HIV確認試験**

ウエスタンブロット法*4 (WB法: HIV-1)	核酸増幅検査 (HIV-1 RNA定量)	判定
+	+	感染
+	-	感染
±	+	感染
±	-	陰性 *2
-	+	感染 *3
-	-	陰性 *1

(結果表記については異なる場合がございます)

- \* 1: 感染のリスクが高く感染初期の可能性が考えられる場合は数週間後に採血し、再検査を実施してください。
- \* 2: 感染の疑いもあるので、数週間後に採血し、再検査を実施してください。
- \* 3: 感染初期の可能性が高いため、数週間後に採血し、再検査を実施してください。
- \* 4: HIV-2型の感染が疑われる場合は、HIV-2抗体 (WB法) を実施してください。

(監修: 前国立感染症研究所エイズ研究センター室長 吉原なみ子先生)

**HIV感染の各ウイルスマーカーと検出時期**

\* 各ウイルスマーカーの検出時期とウィンドウ期は輸血後感染例における平均値であり、個体差があります。  
引用文献: Transfusion, 35(2), 91, 1995  
The New England Journal of Medicine, 334(26), 1685, 1996

\* 急性HIV 感染が疑われる症例の検査はウィンドウ期の検出が大切であり、HIV 抗原・抗体同時検査法を用いることが望ましいとされております。

(監修: 前国立感染症研究所エイズ研究センター室長 吉原なみ子先生)



**【変更後】**

**HIV検査のすすめ方**

HIV抗原・抗体スクリーニング検査 (EIA法)

HIV抗原・抗体スクリーニング検査は高感度な検査法です。しかしながら、方法の如何に関わらず偽陽性率の高い検査でもあります。従いましてスクリーニング検査で陽性あるいは判定保留の場合には確認試験にて感染の有無をご確認いただくことをお勧め致します。(スクリーニング検査陽性のうち、真の感染者は10%以下といわれています)

陽性 (+)      判定保留 (±)      陰性 (-)

判定保留 (±) → 数週間後に再検査

陰性 (-) → 陰性 \*1

**HIV確認試験**

ウエスタンブロット法*4 (WB法: HIV-1)	核酸増幅検査 (HIV-1 RNA定量)	判定
+	+	感染
+	-	感染
±	+	感染
±	-	陰性 *2
-	+	感染 *3
-	-	陰性 *1

(結果表記については異なる場合がございます)

- \* 1: 感染のリスクが高く感染初期の可能性が考えられる場合は数週間後に採血し、再検査を実施してください。
- \* 2: 感染の疑いもあるので、数週間後に採血し、再検査を実施してください。
- \* 3: 感染初期の可能性が高いため、数週間後に採血し、再検査を実施してください。
- \* 4: HIV-2型の感染が疑われる場合は、HIV-2抗体 (WB法) を実施してください。

(監修: 前国立感染症研究所エイズ研究センター室長 吉原なみ子先生)

**HIV感染の各ウイルスマーカーと検出時期**

\* 各ウイルスマーカーの検出時期とウィンドウ期は輸血後感染例における平均値であり、個体差があります。  
引用文献: Transfusion, 35(2), 91, 1995  
The New England Journal of Medicine, 334(26), 1685, 1996

\* 急性HIV 感染が疑われる症例の検査はウィンドウ期の検出が大切であり、HIV 抗原・抗体同時検査法を用いることが望ましいとされております。

(監修: 前国立感染症研究所エイズ研究センター室長 吉原なみ子先生)